

# 認知症の医療② 早期診断・早期絶望をなくす

群馬大学・名誉教授 山口 晴保

前号は、「あれ、さっき言ったばかりのことをまた言ってら。変だな」などと認知症が疑われたときに、だまし討ちで受診させるのではなく、ご家族が親身になって「心配でたまらない私のために受診してください」という泣き落としがよいと書きました。今回はその続きで、認知症と診断・告知されたときの対応です。

## 早期診断・早期絶望

『あなたは、アルツハイマー型認知症です。早く見つかったよかったですね』と言われたら嬉しいですか？ 「がん」の場合は早期発見で完治する確率が高まりますので、早いほど嬉しいです。しかし根本的治療薬が開発されていないアルツハイマー型認知症は、早期に発見されても治りません。進行を多少遅らすことができますが。

世の中、「がん」にならって、認知症も早期発見がいいとテレビでも宣伝が流れます。しかし、診断されて病名を告げられたとき、喜ぶ人はいません。

早期診断は、そのあとに適切な医療・ケアがあつてこそ、意味があります。欧米では、早期診断されたら、①認知症の本人が自分で必要な医療やケアを手配する、②自分で家族に説明する、③自分で将来設計をする（10～15年で死に至ると医師から告げられて）など、本人が主体的に動くための早期診断だ、とされています。一方、我が国では、認知症と診断されたら「判断できない人」とみなされ、家族や周囲の人たちが本人に代わって取り仕切ろうとします。それ故、本人の意向は反映されにくく、家族の負担は増えます。家族が本人のケアをやり遂げたいという点は日本人の良さでもあるのですが、それが行き過ぎると本人の自主性を損ねてしまいます。

そこで、認知症と診断された時、どう対応したら、本人と家族が笑顔で明るく生きられか、その対応策を多くの方に知ってもらいたいのです。

## 認知症初期集中支援チーム

認知症と診断され、「奈落の底に突き落とされました。診断を伝えるだけで、そこに希望がないなんてあまりにひどいです」と、ご家族が訴えています（「認知症の人の語り」というウェブサイト）。この早期診断・早期絶望をなくそうと、前橋市が前橋市医師会に働きかけ、かかりつけ医が認知症と診断したら、認知症初期集中支援チームに直接依頼してもらおう仕組みを作っています。依頼を受けて、チーム員がご自宅を

訪問して本人・ご家族の不安を取り除き、本人のできることを支援する方法を考え、必要な介護保険サービスにつながるよう短期間・集中的に支援します。ご家族からお近くの地域包括支援センターに支援のご依頼をいただくことも可能です。訪問したチーム員が、「ケアのこつ」を伝授します。パンフレットも用意しました。いつでも相談できる窓口も紹介します。こうして、認知症と診断された直後の本人・家族とつながることで、早期診断されてよかったと感じていただけるような支援を心がけています。……おまえは支援チームの関係者だというような書きつぶりだな、と思われましたか？ そうなんです。私はチームドクターとして、チーム員会議に毎回参加しています。

### 訪問



### 会議

支援の方向性の検討

### 支援の実施

生活・介護の指導、受診の支援や介護保険サービス利用の相談、かかりつけ医やケアマネとの連携など

## 認知症になっても幸せに暮らせる

「認知症になったら不幸」という固定観念はストップ！ アルツハイマー型認知症と診断・告知された時に「これで堂々と物忘れてできる」とポジティブにとらえれば、物忘れを気にせず明るく楽しく生活できるのです。もちろん、周囲の人たちの「物忘れしても大丈夫」という環境づくりがあつてこそですが。

「認知症という生活困難を抱えながらも、本人・家族が笑顔で穏やかに暮らせること」の支援が、前橋市認知症初期集中支援チームの目指すところです。

## 告知受け 早く来い来い 初期集中

やまぐち はるやす  
山口 晴保



群馬大学・名誉教授、認知症介護研究・研修東京センター・センター長

1976年に群馬大学医学部を卒業後、群馬大学大学院博士課程修了（医学博士）。専門はアルツハイマー病の神経病理学やリハビリテーション医学（日本リハビリテーション医学会専門医）。アルツハイマー病の病態解明を目指して、脳βアミロイド沈着機序をテーマに28年にわたって研究を続けてきた。また、認知症の進行を防ぐ脳活性化リハビリテーションにも取り組んでいる。これらの研究成果を集大成し、2005年に『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント一快一徹！脳活性化リハビリテーションで進行を防ごう』（協同医書出版社）を出版した。一方、群馬県地域リハビリテーション協議会委員長として群馬県地域リハビリテーション連携システム作りを注ぎ、2006年から「介護予防サポーター」の育成を進めてきた。また、ぐんま認知症アカデミーの代表幹事として、群馬県内の認知症ケア研究の向上に尽力している。日本認知症学会副理事長、第27回日本認知症学会学術集会（2008.10、前橋）会長。